

みんなを見守るプラポン

豊岡市立新田小学校の運動場にじゅれい
50年近くの大きなポプラの木がありました。
ポプラは、学校の風けいになくてはならない
ものとして子どもたちはもちろん、そつ業生
や地いきの多くの人に親しまれていました。

2004（平成16）年9月。台風18号が町
をおそい、その強い風でポプラの木はたおれ
てしまいました。学校の子どもたちや地いき
の人たちは力を合わせて元にもどそうとしま
しましたが、どうすることもできませんでした。
みんなにおしまれながら、ポプラは細かく切
り分けられてしょ分されました。でも、何と
かほぞんできないものかと、大きな切りかぶ
だけは、近くのぞう園業者さんに引き取られ
ていきました。

その一か月後、今度は台風23号の大雨で
川がはんらんし、町は水びたしになってしま
いました。ポプラの切りかぶも、大水に流さ
れてしまいました。

町の水がひくと、みんなはびっくりしまし
た。流されたポプラの切りかぶが、2kmい上
はなれたたんぼのまん中に、まるではじめか



(写真提供 高橋 信さん)

らそこで育っていたかのように、どう
どうと力強く立っていたのです。新田
小学校の子どもたちや台風のひがいで
苦しんでいた町の人たちは、たんぼに
立つ大きな切りかぶを何度も何度も見
におとずれました。

春になりました。おどろいたこと
に、ポプラの切りかぶから新めがいつ
ぱいふき出てきました。ポプラの木は、たおれても、切られても、そして水に流
されても一生けん命に生きようとしていました。
新田小学校の子どもたちは、その新めをさし木して育てることにしました。そ
して、「プラポン」と名前をつけて、校庭に植えました。プラポンは、みんなのあ
いじょうをいっぱいを受けてすくすく育ち、見上げるほどに大きくなりました。
今、新田小学校ではプラポンが、校庭で遊ぶ子どもたちを見守るように立っ
ています。



↑すくすく育つプラポン（豊岡市立新田小学校）

わたしたちも、プラポンのように
強くなりたいね。



帰ってきたプラポン

2007（平成19）年3月、ポプラの切りかぶは新田小
学校にもどってきました。

ポプラの木としては生きて
いくことができませんでしたが、モニュメントとしてその
すがたをのこし、校庭のプラ
ポンといっしょに子どもたち
を見守っています。

